

# 中国の食品安全性における消費者意識

## アンケート調査とその分析

周 艶

### 要 旨

本稿は中国の食品安全問題の現状、ならびに消費者の食品安全性意識についての実証研究である。調査内容は豚肉を対象とし、中国江蘇省の無錫市民を対象にアンケート調査を実施した。その分析結果によると、消費者は豚肉の安全性が高まるのであれば、10%以上の価格上昇を受け入れる意思があること、豚肉の生産・流通・販売プロセスにおいて、飼育部門が安全性確保に最も責任を負うべきであると考えていることが明らかになった。

キーワード：中国の食品安全性、消費者の食品安全性意識、食品の安全意識、豚肉の流通プロセス、安全性確保の責任所在

## 1. はじめに

中国では、残留農薬、違法添加物使用、重金属汚染などによる有害有毒食品が横行している。特に豚肉の生産は5,355万トン（2013年）と大きく（中国国内肉類生産量の64%、世界豚肉生産量の45%）、中国と世界の食肉の安全に大きな影響を及ぼすにも関わらず、肉赤身化剤や注水肉など、中国産の豚肉の安全性を疑わせる問題が頻繁に発覚している。この原因としては、豚の飼育から消費者への販売までの各段階の業者間の契約が不明瞭であったり、第三者機関による観察や政府による処罰が不十分であることがしばしばあげられ、契約メカニズムや監視コストなどの観点から経済学的分析と政策提言がなされている（唐民皓（2012）、韓俊（2007）、詹承豫（2009）、程景民（2013）など）。こうした経済理論に基づく分析と対策は重要であるが、消費者の食品安全についての知識の欠如と、職業倫理を欠く生産者がそれを悪用しようとすることも重大な問題である。

そこで本稿では、中国の消費者がもっている現在の食品安全認識および豚肉の食品安全に関する考え、現状などを調査し、消費者の食品安全意識を高めるとともに、より有効な食品安全（豚肉を含む）の信用・規範システム構築に対する研究の第一歩としたい。

## 2. 中国の食品安全性に関する現状

経済のバブル化が進み、変動の激しい中国市場では将来の見通しがなかなか立たない。まして民間企業の多くは中小の零細企業や個人経営である。中小企業や個人経営がいつ淘汰されて

も不思議ではない。こうした状況の下では、初期の設備投資が比較的少なく済み、零細企業の参入が比較的容易な食品業界では、市場で買い手のつくうちに粗悪品でも不良品でも売っておこうと、個々の企業が近視眼的な利益追求に走りがちである。中国社会における信用や規範の弱まりと拝金主義の横行を世間に知らしめた典型的な事例が、廃棄された食用油を下水溝からすくい取って再利用した「地溝油」事件である。李松（2011）によれば、中国社会全体が誠実さや信頼を軽視する風潮の中で、激烈な市場競争にさらされている企業は直近の利益を獲得するために非合法な手段を使うことも辞さなくなっている。つまり、食品安全性をめぐる事件の頻発は「中国社会が道徳心を喪失した縮図」だというのである。

図1は、中国の食用農産物の生産から消費までの流れと流通組織を示したものである（農林水産省）。食用農産物の最も典型的な流れは、農家等の生産者から産地卸売商人に、次いで産地市場で産地卸売商人から消費地卸売商人に、そして消費地市場で消費地卸売商人から小売組織に食用農産物が渡り、最終的に消費者が小売組織から購入するというものである。中国の食用農産物流通の特徴は、日本のように農協を通じた委託販売は行われず、生産者、産地卸売商人、消費地卸売商人および小売組織の相互間の取引がそれぞれ個別に相対の売買で行われることである。産地卸売商人は複数の生産者から食用農産物を買集め、また消費地卸売商人は複数の産地卸売商人から必要な食用農産物入手する。そして小売組織が消費地卸売商人から必要な食用農産物を仕入れる。このように、食用農産物が小売組織の店頭で売り出されるまでに一般的には3回の売買を経ることとなる。食用農産物の流通が売買人を変えながら行われるため、トレーサビリティを確保することが難しく、消費者が購入した食用農産物で食品事故が発生した場合においても、原因や責任の所在をつきとめにくい構造になっている。

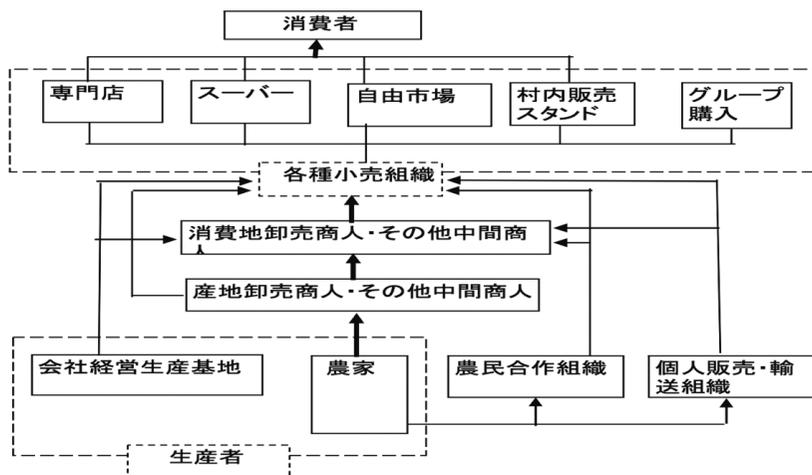


図1：中国国内の食用農産物の流れと流通組織

出典：李銅山（2009）「食品農産品安全研究」p.55

→：農産物の流れ

豚肉は庶民が最もよく消費する肉製品であるために、食品安全事故の多発に結びつくものでもある(呉林海他, 2014)。呉林海他(2015)は中国では豚肉製品に関する食品安全事件は主に豚飼育, 豚屠殺・加工および流通販売で多発していることを示した。孫世民他(2012)は豚を飼育する事業者の安全管理は生産の源として豚肉の安全性に大きな影響を与えると指摘し, 呉秀敏(2007)と董艳德(2010)は環境の悪化による感染, 疫病予防水準の低下および豚飼育における薬品, ホルモンなどの使用が, 豚肉食品安全管理における危険性を高めることを示した。そして, 刘军弟(2009)は違法で無許可の屠殺, 病死豚と注水肉の生産と販売が, 豚屠殺・加工の隠れた危険をもたらすと考えた。豚肉の流通・販売においては, 姜丽红他(2009)は不適切な温度管理, 不潔な環境, 不適切な包装材料使用が細菌繁殖および肉腐敗などの問題を引き起こすことを指摘した。

中国においても多発する食品安全問題は, 社会的に注目されており, 中国政府は2000年から食品トレーサビリティシステムを導入しはじめた。当然, 食品トレーサビリティシステムの導入にしたがい, 生産コストが高くなる(Glynn et al, 2006)。完備した食品トレーサビリティシステムを確保するため, 生産者が食品に関するデータの収集・記録するには, 大きなデータベース, データ交換システムの建設コストが発生する Meuwissen et al, (2003)。Angulo et al, (2005)では実験で消費者の食品トレーサビリティを検索できる牛肉に対する支払意思を調べた。結果, 75%の被験者は食品の安全性を保証するのは生産者の義務であり, 食品トレーサビリティシステムの導入は安全政策ではないと認識し, 食品トレーサビリティシステムのコストは消費者が負担するべきではない, として支払を拒否したことを指摘した。Angulo & Gil (2007)はスペインの消費者の食品トレーサビリティシステムを導入した牛肉に対する支配意思を調べた。その結果, 消費量, 平均消費価格と収入が消費者の支払意思に影響することを示した。呉林海他(2010)では, 中国江蘇省で1,757名の消費者にアンケート調査を実施し, 豚肉の食品トレーサビリティシステムの消費者の支払意思を調べた, 消費者の食品トレーサビリティシステムへの認知度が高くないことから, 多くの消費者は余分な費用を拒否した。そして, 消費者の年齢, 食品安全問題の注目の程度, 収入などの要素が消費者の支払意思に影響することを示した。

### 3. アンケート設定・実施要領

本調査は中国における消費者の現状および食品安全意識を調査することを目的とする。調査は中国江蘇省無錫市の江南大学食品安全基地の協力を得て2016年9月上旬に実施した。無錫は中国江蘇省の南部にある, 人口652.9万人(2016年常住人口)が住んでいる都市である。本調査は413人の無錫市民を対象に, 2016年9月1日から9月11日までに, 江蘇省無錫市江南大学の学生10人を雇用し, 無錫市内のスーパー, 住宅地近傍, ショッピングモール, 商店街な

ど各地点でアンケート用紙に記入を求める形で実施した。

アンケートの設計についての、詳細は付録の通りである。1)～5)までは回答者の性別、年齢層、職業、学歴、世帯年収などの属性について尋ねている。6)は回答者の食費に対する支出のゆとりについて、5段階でわけて尋ねている。7)は食品の購入先について尋ねている、中国では、小売商店・食品専門店、スーパー、コンビニ、デパートでは、食品安全管理について、政府が強く監督しているが、ネットショッピング、朝市などでは、それほど監督されていない。だが、ネットショッピング、朝市は消費者にとって調達が便利、価格が安いというメリットがあるため、頻繁に利用されている。8)は食品を購入するときの選択の基準を、見た目や安全性、評判などに関係する項目をあげ、複数回答で回答を求めている。9-1)では、安心して豚肉を買うために、どんな点に注意しているかについて、信頼できる店で買う、生産地、生産者名などの項目をあげて、3段階の重要度で評価を求めている。9-2)では、9-1)で1つでも「重要」と答えた回答者に、そのようにして安全を確認した豚肉を購入するための支払い意思の程度を尋ねた。10)では、回答者の一週間の豚肉の消費量について、回答を求めた。11)では、回答者が今まで豚肉を食用することによって食中毒した経験があるかどうかについて、尋ねた。12)では、豚肉に関する食品安全事件に注目するかどうかについて、「はい」、「いいえ」の形式で、回答者に質問した。13)では、近年発生した豚肉食品安全事故が回答者の購入行動に与えた影響について、5段階で尋ねた。最後、14)では、豚肉の飼育から屠場、運送、販売に至る4つのプロセスに関して、それぞれ主要責任を負うかどうかについて、回答者に意見を求めた。

#### 4. 調査結果

回答者の属性の記述統計は表1の通りである。413人の内男性172人(41.65%)、女性241人(58.35%)、年齢分布は20-29歳が41.65%を占め、30-39歳と40-49歳グループはそれぞれ34.14%と16.95%、19歳以下と50-59歳の割合は少なく、それぞれ2.18%と5.08%を占める。全体の年齢分布は92%以上が20-49歳の間にある。職業を見ると、公務員が一番多く、45.76%で、次は学生、非営利の消費者組織(生協など)の勤務者、自営業者で、それぞれ11.86%、9.44%と8.72%を占める。学歴分布は専門学校、大卒の割合はそれぞれ25.67%と47.94%で、全体の70%以上を占め、小学校以下及び小学校卒は2.42%、中卒は6.54%、高卒は14.77%、大学院生は2.66%だった。

世帯年収水準を見ると、世帯年収が96,000円以上の割合がもっとも高く、29.54%だった。次が、48,001-72,000円で、21.79%を占め、24,001-48,000円と72,001-96,000円の割合が共に16.71%だった。

表1 記述統計量

項目1	項目2	度数	%
性別	男	172	41.65
	女	241	58.35
年齢	19歳以下	9	2.18
	20-29歳	172	41.65
	30-39歳	141	34.14
	40-49歳	70	16.95
	50-59歳	21	5.08
職業	農業・畜業・水産の生産者	11	2.66
	食品加工・流通・販売の従業員	16	3.87
	食品の安全管理・衛生分野の公務員・研究者	22	5.33
	非営利の消費者組織（生協など）の勤務者	39	9.44
	公務員・会社員	189	45.76
	パート・アルバイト・契約社員	15	3.63
	自営業	36	8.72
	学生	49	11.86
学歴	専門学校	20	4.84
	無職	16	3.87
	小学校及びその以下	10	2.42
	中学校卒	27	6.54
	高等学校卒	61	14.77
	専門学校	106	25.67
	大卒	198	47.94
大学以上	11	2.66	
世帯年収	24,000元及び以下	63	15.25%
	24,001-48,000元	69	16.71%
	48,001-72,000元	90	21.79%
	72,001-96,000元	69	16.71%
	96,000元以上	122	29.54%

調査した413人の消費者のうち41.1%の回答者は自分の食費に関して「一応足りている」と答え、19.85%の回答者は「多少余裕がある」、20.1%の回答者は「かなり余裕がある」と答えたが、「やりくりが大変で、苦しい」と「やや苦しい」と答えた割合の合計は18.65%だった。これは調査した消費者の多くは食品支出に対して、それほど負担と感じていないことを示している。

食品の購入先に関しては、図2で示した通り、よく利用する購入先として77%の回答者はスーパーと回答し、行きつけの小売商店をあげた回答者は46.49%だった。また44.07%の回答者はコンビニをよく利用すると答えた。ほとんどすべての購入先が回答者の40%足らずから

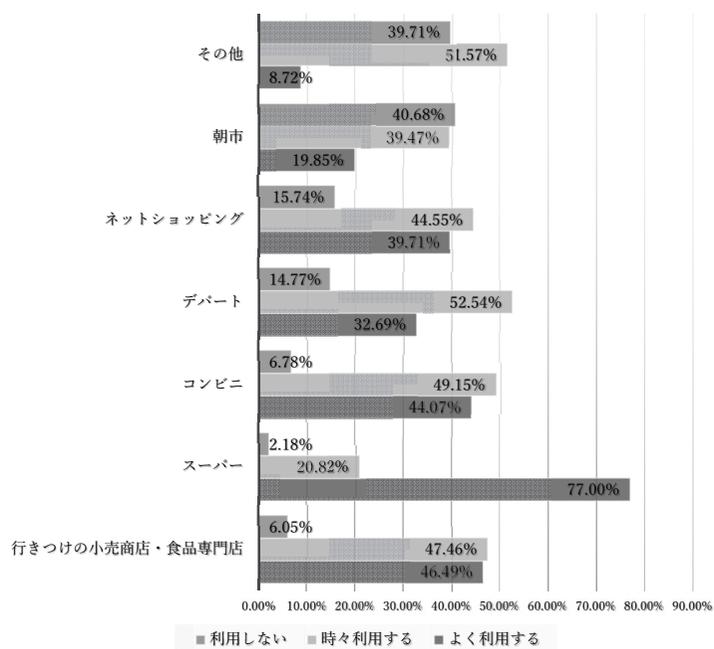


図 2：食品の購入について

50%あまりが「時々利用する」購入先としてあげられている。51.57%が「時々利用する」と回答した「その他」であるが、中国では個人的な関係を通じて生産者から豚肉を直接買い付けることが珍しくなく、おそらくそうした購入手段が「その他の」相当割合を占めると考えられる。唯一割合が低いのはスーパーで、これは多くの回答が「よく利用する」に集中しているためである。朝市は利用しないという回答の割合は40.68%を占める。

食品の購入基準については、もっとも高い割合で選択されたのが「おいしいそうだ・味が良さそうだ」と「新鮮そうだ」で、共に回答者の48.18%に選択した。次に、高かったのが「栄養がありそうだ」の35.84%。食品の安全性に関する項目「安全性が高いように見える」を選択した割合は27.36%だった、相対的に高いと言えるが、一方、「価格の安さ」を重視する回答も18.89%があり、やはり安全性だけでなく、価格も1つ重要な要素であることが伺える（図3）。これを見ると、市民の食品に関する選択基準が主に新鮮さと栄養分であることが分かった。

安心して豚肉を買うために気を使っているのは、「新鮮さ」であるという回答の割合が91.04%だった。購入するとき84.26%の回答者は信頼できる店で購入し、よく確認する点は、消費期限または賞味期限であるという回答が86.2%を占める（図4）。

図5では、「そのようにして安心を確認した豚肉は、そうでない豚肉と比べて、いくらぐらいの価格であれば買いますか？」を尋ねている、60.77%の回答者は1割ぐらい高くても買うと答え、8.72%の回答者は3割以上でも買うと答えた。この結果は、89%の回答者がより安心して豚肉を買うために、1割ぐらいの追加的費用を負担してもよいと考えていることがわかる。

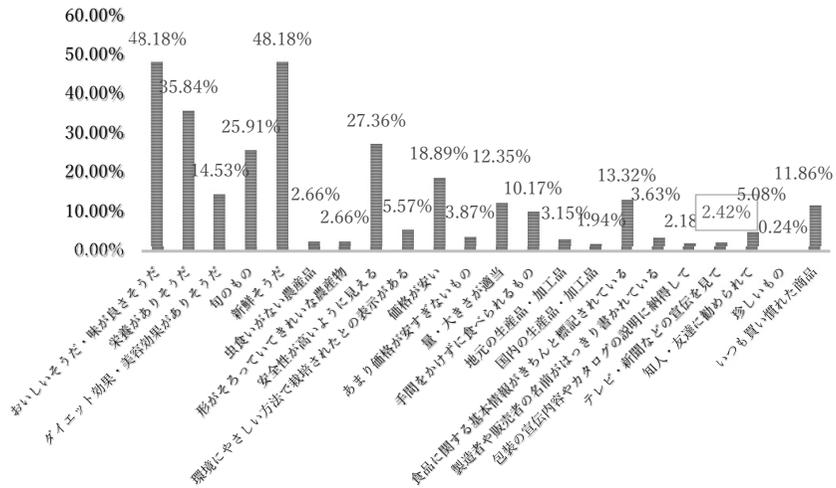


図3：食品の購入基準について

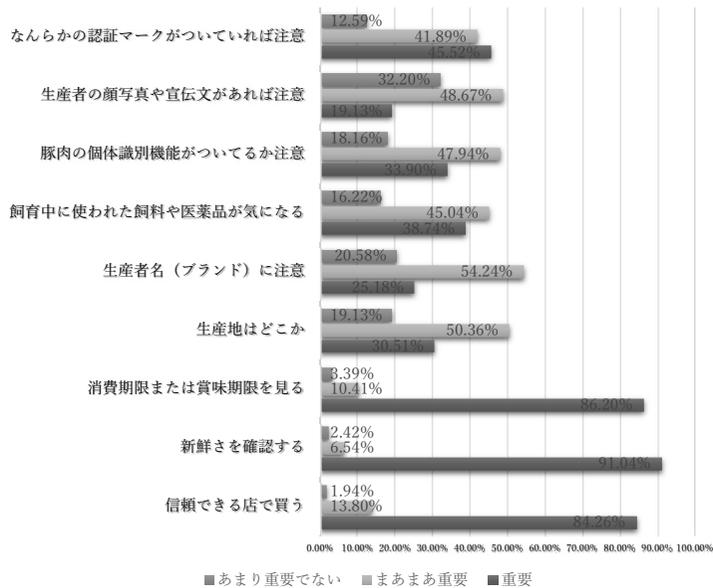


図4：安心して豚肉を買うために気を使う点

回答者の45.28%は週1,000g～2,000gの豚肉を消費し、28.57%は1,000g以下で、16.46%は2,100g～3,000gを消費、消費量が3,000g以上は9.69%を占めた。

413人の回答者のうち、5.33%は豚肉を食用することによって食中毒になった経験があると回答している。要するに、20人のうちに1人は豚肉食用に関する食中毒になったことを示している。豚肉に関する食品安全事件を注目している回答者は79.66%もあり、豚肉の食品安全性に対する関心が高いことを示している。近年発生した豚肉食品安全事故（豚肉の肉赤身化

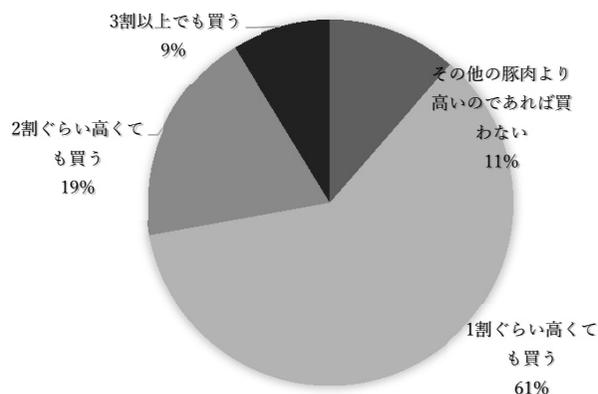


図5：より安心できる豚肉購入に関する支払い意思

剤（塩酸クレンブテロール）、上海黄浦江の豚の死骸事件）の影響を見ると、26.15%の回答者は非常に影響があると答え、ある程度影響があると答えたのは48.91%だった。「あまり影響がない」と「全く影響がない」を答えた回答者は4.11%にとどまった。やはり食品安全事件は消費者の食品安全意識に対して非常に影響を与えていることが伺える。

現在の豚肉の飼育から屠場、運送、販売に至るどの段階に対して、食品安全に関する主要な責任を負うのかに対して、飼育だと答えたのは87.41%だった、これ以外の屠場、運送および販売の段階はやや少なかった（図6）。この結果については、豚飼育段階での管理が生産性においてもっとも重要であるという孫世民他（2012）の主張と整合的であるといえる。

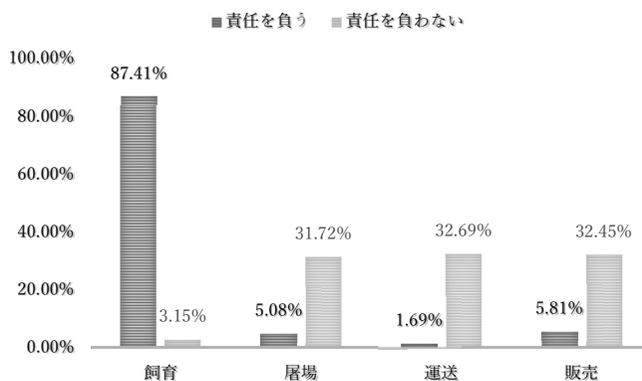


図6：豚肉の安全性に対する責任の所在に関するアンケート結果

## 5. 支払意思に影響する要素の分析

先述べたように、「そのようにして安心を確認した豚肉は、そうでない豚肉と比べて、いくらぐらいの価格であれば買いますか？」を尋ねた結果、60.77%の回答者は1割ぐらい高くても買

うと答え、87.2%の回答者は3割以上でも買うと答えた。要するに、89%の回答者がより安心して豚肉を買うために、1割ぐらいの追加的費用を負担してもよいと考えていることがわかる。本稿では、先行研究を踏まえて、回答者の性別、年齢、収入が支払意思に影響する要素だと考える。つまり、支払意思が非説明変数として設定し、性別、年齢、収入の三要素が説明変数だと考えて分析を試みた。

表2は各変数の設定解説と基本統計量である。

表2 変数定義および基本統計量

項目	詳細	平均値	標準偏差
支払意思	消費者がもっと安心できる豚肉を購入するため余分に支払う額(他のものより高い場合買わない=1, 10%以内で買う=2, 20%以内で買う=3, 30%でも買う=4)	2.251816	0.7692689
性別	男性=1; 女性=0	0.4164649	
若年層	29歳以下=1, 他=0	0.4382567	
中年	30歳~49歳=1, 他=0	0.5108959	
高齢者	50歳以上=1, 他=0	0.0508475	
低収入	48,000元以下=1, 他=0	0.3196126	
中収入	48,001元~96,000元=1, 他=0	0.3849879	
高収入	96,001元以上=1, 他=0	0.2953995	

回帰分析した結果は表3の通りである。分析結果によると、女性を基準にすると、男性はより低い支払意思を表明し、高齢者を基準として、中年はより高く、若年層はさらに高い支払意思を表明しているが、これらはいずれも統計的に有意ではない。最も消費者の支払意思に影響を与えるのは収入である、高収入者を基準として、中収入者の支払意思は低く(-0.04)、低収入者の支払意思はさらに低い(-0.66)。すなわち、支払意思は収入に応じて増加する。この相関は統計的に明確に有意である。この結果は Angulo et al. (2007) に非常に類似している。

表3 回帰分析結果

項目	推定値	t 値	P
性別	-0.08996	-1.23	0.2209
若者	0.2126251	1.25	0.2128
中年	0.1269283	0.76	0.4485
高齢者	0	.	.
低収入	-0.661631	-7.00	<.0001*
中等収入	-0.0404764	-4.57	<.0001*
高収入	0	.	.

$\chi^2 = 243.81114$ , 自由度 = 5, p 値 = <.0001\*

## 6. 結論

本稿の検証では、中国無錫の消費者の食品安全性の現状と消費者の意識を調査することによって、消費者の生活水準が徐々に高まる昨今にあって、食品安全意識も高くなっていることが明確になった。大半の消費者は安心を得るために1割程度の割増価格を払うと回答したことは、それを示しているといえるだろう。また、消費者は豚肉の食品安全性において、飼育・屠場・運送・販売の4つプロセスを担当する部門のうち、どの部門に責任があるかという質問に対しては、豚の飼育部門に主要な責任がある、という回答が最も多かった。また、中国無錫の消費者の支払意思に主に影響する要素は収入であることが明らかになった。この結果は、Angulo et al. (2007) と呉林海他 (2015) の研究と整合的である。

筆者はこれまでの研究で、実験哲学における Knobe 効果、すなわち、多くの人は、自己利益追求の副作用として他人に不利益をもたらした人について、その人は意図的に不利益をもたらしたと考えるが、自己利益追求の副作用として他人に利益をもたらした人については、意図的にその利益をもたらしたことは考えないことを検証している(周, 2015)。豚肉生産者自身は豚肉生産・流通における不正行為で消費者に健康被害という副作用を与えたときに、それを自分が意図的に行ったものではないと認識し、外部の第三者は消費者の健康被害に関しては、生産者たちが意図的にもたらしたと考える、というのが Knobe 効果の示唆するところである。これは、生産・流通業者の自発的な努力やコスト負担で、第三者から見て望ましいと思える水準で安全性が確保できるとは期待できないことを示すことになるが、一方で、実際そう考える程度については検証の余地がある。すなわち、生産者がみずからの不正をどの程度意図的におこなったと考えているか、また消費者が生産者の不正をどの程度意図的に行われたものと考えているかについて検証することは今後の課題となる。これは、今後求められる食品安全性に関する法整備およびそのコスト負担において、より人々の倫理観に沿い、受け入れられやすい制度整備のための提言に資すると考えられる。

本稿でアンケートした結果、消費者は豚肉生産の4つプロセスの内、飼育部門が豚肉安全性において、主要責任を負うべきだと思っていることがわかった。これからの研究課題としては、この意図的判断の非対称現象に対して、生産者に関しては豚の飼育部門に絞って調査を行い、第三者の判断に関しては、消費者が豚肉の問題に関しては第三者ではないため、仮想的な環境に対する問いを設定する経済学実験に基づく調査によって明らかにし、人々の倫理的判断に関する実験哲学の知見から、政策提言力のある研究を目指す。それが、より安全性・信頼性の高い食品生産、監督システムの構築につながると考える。

## 参考文献

- Angulo, A. M.; Gil, J. M. and Tamburo, L.: Food Safety and Consumers' Willingness to Pay for Labelled Beef in Spain, *Journal of Food Products Marketing*, 11(3), 2005.
- Angulo, A. M. and Gil, J. M.: Food Safety and Consumers' Willingness to Pay for Labelled Beef in Spain, *Food Quality and Preference*, 18, 2007.
- Glynn, T.; Tonsor, T. and Schroeder, C.: Livestock Identification: Lessons for the U.S. Beef Industry from the Australian System, *Journal of International Food & Agribusiness Marketing*, 18(3/4), 2006.
- Meuwissen, M. P. M.; Velthuis, A. G. J.; Hogeveen, H. and Huirne, R. B. M.: Traceability and Certification in Meat Supply Chains, *Journal of Agribusiness*, 21(2), 2003.
- 石原, 享一; ISHIHARA, Kyoichi, “中国の食品安全問題と企業文化”, 北海商科大学論集 3(1), 2014.
- 周艶: “当事者と第三者のもつ公平観の実験研究”, 京都産業大学博士後期課程学位論文, 2015.
- 程景民『中国食品安全監管体制運行現状和対策研究』軍事医学科学出版社, 2013年.
- 董艳德:《规模养殖场防疫模式的建立》, 中国动物检疫》2010年第2期.
- 韓俊主編『中国食品安全報告(2007)』社会科学文献出版社, 2007年.
- 上海市食品藥品安全研究中心・唐民皓編『食品藥品安全与監督政策研究報告(2012)』社会科学文献出版社, 2012年.
- 上海市食品藥品安全研究中心・唐民皓編『食品藥品安全与監督政策研究報告(2013)』社会科学文献出版社, 2013年.
- 姜利红, 觀捷, 謝晶, 晏紹庆, 秦玉清:《基于 HACCP 的猪肉安全生产可追溯系统溯源信息的确定》, 《中国食品学报》2009年第2期.
- 李銅山:《食品農產品安全研究》, 社会科学文献出版社, 2009年.
- 刘军弟:《基于产业链视角的猪肉质量安全管理研究》, 南京农业大学博士学位论文, 2009年.
- 駱漢城ほか『中国誠信報告』江蘇文藝出版社, 2004年.
- 孙世民, 张緩媛, 张健如:《基于 Logit-ISM 模型的养猪场(户)良好质量安全行为实施意愿影响因素的实证分析》, 《中国农村经济》2012年第10期.
- 童一秋・記康保編『誠信中国——中国企業信用危機報告』中国文盲出版社, 2002年.
- 王彩霞『地方政府擾動下的中国食品安全規制問題研究』経済科学出版社, 2012年.
- 吴林海, 徐玲玲, 王晓莉:《影响消费者对可追溯食品额外价格支付意愿与支付水平的主要因素—基于 Logistic, Interval Censored 的回归分析》, 《中国农村经济》, 2010年第4期.
- 吴林海, 王红纱, 刘晓琳:《可追溯猪肉:信息组合与消费者支付意愿》, 中国人口・资源与环境》2014年第4期.
- 吴林海, 秦沙沙, 朱淀, 李清光, Wuyang Hu:《可追溯猪肉原产地属性与可追溯信息属性的消费者偏好分析》, 《中国农村经济》, 2015年第6期.
- 詹承豫『食品安全監管中的博弈与協調』中国社会出版社, 2009年.
- 朱淀, 蔡杰, 王红纱:《消费者食品安全信息需求与支付意愿研究基于可追溯猪肉不同层次安全信息的 BDM 机制研究》, 《公共管理学报》2013年第3期.

## 付録

样本区域：\_\_\_\_\_省（市）\_\_\_\_\_市（区，县）\_\_\_\_\_镇（街道）\_\_\_\_\_

调查员姓名：\_\_\_\_\_ 调查日期：\_\_\_\_\_ 问卷编号：\_\_\_\_\_

豚肉の安全と安心，道德判断についてのアンケート調査

● 該当の項目に○で囲んでください。

- 1) 性別 1 男性 2 女性
- 2) 年齢層 1 ~19歳 2 20-29歳 3 30-39歳 4 40-49歳 5 50-59歳  
6 60-69歳 7 70歳以上
- 3) 職業 1 農業・畜業・水産の生産者  
2 食品加工・流通・販売の従業員  
3 食品の安全管理・衛生分野の公務員・研究者  
4 非営利の消費者組織（生協など）の勤務者

上記以外の：

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| 5 公務員・会社員 | 6 パート・アルバイト・契約社員 |
| 7 自営業     | 8 学生             |
| 9 専門職     | 10 無職            |
- 4) 学歴 1 小学校及びその以下 2 中学校卒  
3 高等学校卒 4 専門学校  
5 大卒 6 大学以上
  - 5) 家庭年収について，該当する項目を囲んでください。
    - 1 24000 元及び以下
    - 2 24001-48000 元
    - 3 48001-72000 元
    - 4 72001-96000 元
    - 5 96000 元以上
  - 6) あなたの食費について，該当する項目を囲んでください。
    - 1 やりくりが大変で，苦しい
    - 2 やや苦しい
    - 3 一応足りている
    - 4 多少余裕がある
    - 5 かなり余裕がある

7) あなたは食品をいつもどこで買いますか。以下の項目について、該当する項目を○で囲んでください。

		よく利用する	時々利用する	利用しない
1	行きつけの小売商店・食品専門店	1	2	3
2	スーパー	1	2	3
3	コンビニ	1	2	3
4	デパート	1	2	3
5	ネットショッピング	1	2	3
6	朝市	1	2	3
7	その他	1	2	3

8) あなたは食品を購入するとき、どのような基準で選びますか？自分にとって重要だと思われる項目を○で囲んでください。（複数回答、3項目まで）

- 1 おいしいそうだ・味が良さそうだ
- 2 栄養がありそうだ
- 3 ダイエット効果・美容効果がありそうだ
- 4 旬のもの
- 5 新鮮そうだ
- 6 虫食いがない農産品
- 7 形がそろっていてきれいな農産物
- 8 安全性が高いように見える
- 9 環境にやさしい方法で栽培されたとの表示がある
- 10 価格が安い
- 11 あまり価格が安すぎないもの
- 12 量・大きさが適当
- 13 手間をかけずに食べられるもの
- 14 地元の生産品・加工品
- 15 国内の生産品・加工品
- 16 食品に関する基本情報がきちんと標記されている
- 17 製造者や販売者の名前がはっきり書かれている
- 18 包装の宣伝内容やカタログの説明に納得して
- 19 テレビ・新聞などの宣伝を見て
- 20 知人・友達に勧められて

21 珍しいもの

22 いつも買い慣れた商品

9-1) あなたが安心して豚肉を買うために、どんな点に注意していますか？以下の項目の重要度を3段階に分けて、該当の項目を○で囲んでください。

		重要	まあまあ重要	あまり重要でない
1	信頼できる店で買う	1	2	3
2	新鮮さを確認する	1	2	3
3	消費期限または賞味期限を見る	1	2	3
4	生産地はどこか	1	2	3
5	生産者名（ブランド）に注意	1	2	3
6	飼育中に使われた飼料や医薬品が気になる	1	2	3
7	豚肉の個体識別機能がついてるか注意	1	2	3
8	生産者の顔写真や宣伝文があれば注意	1	2	3
9	なんらかの認証マークがついていれば注意	1	2	3

9-2) 上記で、あなたが「重要」であると回答した項目が一つでもある方にお尋ねします。

そのようにして安心を確認した豚肉は、そうでない豚肉と比べて、いくらぐらいの価格であれば買いますか？該当する項目を○で囲んでください。

- 1 その他の豚肉より高いのであれば買わない
- 2 1割ぐらい高くても買う
- 3 2割ぐらい高くても買う
- 4 3割以上でも買う

10) 豚肉毎週の消費情況.

- 1 1000 g 以下
- 2 1000 g ~ 2000 g
- 3 2100 g ~ 3000 g
- 4 3000 g 以上

11) 豚肉を食用することによって食中毒した経験がありますか? 該当する項目を○で囲んでください.

- 1 あり
- 2 なし

12) 豚肉に関する食品安全事件を注目しますか? 該当する項目を○で囲んでください.

- 1 はい
- 2 いいえ

13) 近年発生した豚肉食品安全事故 (豚肉の肉赤身化剤 (塩酸クレンブテロール), 上海黄浦江に豚の死骸事件) があなたに影響を与えましたか?

- 1 非常に影響がある
- 2 まあまあ影響がある
- 3 影響がない
- 4 あまり影響がない
- 5 全く影響がない

14) 現在の豚肉の飼育から屠場, 運送, 販売に至るどの段階にもっとも責任があると思いますか. 該当する項目に○で囲んでください.

豚肉の食品安全にもっとも責任を負う		豚肉の食品安全にもっとも責任を負わない
	飼育	
	屠場	
	運送	
	販売	

## A questionnaire survey of consumers' consciousness on food safety in China

Yan ZHOU

### Abstract

This paper is an empirical study on consumers' awareness about food (pork in this study) safety in China. A questionnaire survey was conducted for the residents of Wuxi, China. The empirical results show that consumers are willing to pay the price more than 10 percent for the safer pork, and they think that pig breeding sector should have the greatest responsibility for the safety of pork.

**Keywords:** food safety in China, Consumer consciousness about food safety, Food safety consciousness, Distribution process of pork, responsibility to safety